



## 3・異文化とコミュニケーション

2025.5.13-4限

2025年度島原市医師会看護学校-文化人類学

1



### [再]異文化理解とはどういうことか？

- 中国における猫食の**文化的背景**
  - 猫<虎（あるいは蛇<龍）という比喩的關係
  - 漢方や医食同源といった思想
- 同様の事例は、他にもないだろうか？
  - 日本におけるうなぎ食・まむし酒や、韓国における犬食
- 猫食の**文化的背景**を知ったの「翻訳」と知らないでの「翻訳」は意味が違うし、当然「理解」にも差がでる
- **異文化理解とは、「文化の背景・理由・詳細について知ろうとすること」である**

2025/5/13-4限 3・異文化とコミュニケーション 2

2

## 異文化理解とコミュニケーション

- 異文化理解は「知ること・知ろうとすること」だとすると、それには**なんらかのコミュニケーションが不可欠**
- ところが、**コミュニケーションにことばを用いるかぎり、100%信頼できるコミュニケーションは実現できない**
  - ある語が指す内容について、話者Aと話者Bが想定する内容が一致しているかどうかを確認する手段はない

2025/5/13-4限 3・異文化とコミュニケーション 3

3

## そもそも「コミュニケーション」ってなに？

- 本質は「共有する」ということ**
- たとえばこんなふうに考えることができる：
  - おおまかな定義) Aさんが**なにかアクション**を取ることによって、Bさんに**なにか情報が伝わる**こと (アクションは「ことば」だけとは限らない)
  - 一方向的なものというよりは**双方向的なものとしてとらえた方が、現実と符合しやすい** (が、「片思い」のコミュニケーションもあり得る)
  - なにかの情報を伝える目的があってされることが多いが、「意図せず漏れてしまう」ことも当然あり得る
  - そして、Aさんが伝えようとする「**なにか**」が、**過不足なく、100% Bさんに伝わる**、ということは、**なかなか難しい**
  - 実際のコミュニケーションの場面では、**想像するよりはるかにたくさんの情報が生まれている** (伝わっているとは限らない)

例) クラスのともだちとの会話 / この講義 / 講義で寝ている学生・寝ているのを起こさない講師 / 互いに外国語同士の会話(?) / 看護師と患者の会話

2025/5/13-4限 3・異文化とコミュニケーション 4

4



## 理解できる／理解しようとする

---

- 100%のコミュニケーションが成立しない以上、コミュニケーションに基づいて得られる理解には、常に誤解がどこかには生じている
- では、どうせ誤解があるなら、面倒な思いをしてコミュニケーションしなくてもいいのか？
  1. だれかがそうしたスタンスをとることを止めることはできない（文化相対主義の限界）
  2. だからといって、すべてのコミュニケーションを諦める必要もない……どうせ100点とれないから試験勉強はしない？ 30点よりは50点がましだから、ちょっとでもがんばる？
- 「理解できる」のではなく「理解しようとすることができる」だけだが、「理解しようとする」のとそれを諦めるのとの間には、大きな差がある

2025/5/13-4限 3・異文化とコミュニケーション 5

5



## なぜ異文化を理解しようとするのか

---

- 理由1：「理解はコミュニケーションに基づく」から
  - 理解のためのコミュニケーションの多くが双方向的なものとすると、その回路を一方向的に閉ざすわけにはいかない
- 理由2：「知らなくてもいいが、知っていればよりよいことがあり得る」から
  - たとえば方言が話せるスタッフと、うまく話せないスタッフ、どちらの方が患者さんの信頼を得やすいだろうか？
- 結局のところ、異文化理解は、他人への理解・他人とのコミュニケーションとよく似た面を持っている
  - それは、もともとひとの始まり＝原始人の頃には、ほとんどすべての他者が「異文化」であったこととつながっている

2025/5/13-4限 3・異文化とコミュニケーション 6

6



## 異文化の重要性

- もしも地球上の全人類がおなじ文化を持ち、おなじことばを話し、おなじように行動して、おなじ考え方をするとしたらどうだろうか？
  - 確かに英語を覚える苦勞は必要なくなるが、非常に殺風景で味気ない世界が出現することもまちがいない
  - それはもはや「人間」の世界ではなく「**ロボット**」の世界に近い
- つまり「人間らしい」ということの多くは「**異文化（他者）の存在**」が支えてくれている
  - 考え方の違う他者にいらついたり傷ついたり、誤解が生じてトラブルになることもあるだろう
  - けれども「**わかり合える**」という「**人間らしい体験**」は、**そうした他者がいるからこそ成り立つ**

2025/5/13-4限 3・異文化とコミュニケーション 7

7



## 異文化理解-まとめ(1)

1. 異文化理解とは「まあそれもありだろう」と認めることではない
2. 異文化理解とは「やってみること」でもない
3. 異文化理解とは、その行為や考え方の背景を理解することである
  - a. だからある意味だれにでもできる（猫好きであっても猫食は「理解」できる）
  - b. 逆にやろうと思わなければできない（簡単に流すことはできない）
4. 異文化理解は、ことば（コミュニケーション）を媒介として成り立つ
  - だから、**100%完全に理解することはできない**（コミュニケーションの限界）

2025/5/13-4限 3・異文化とコミュニケーション 8

8



## 異文化理解-まとめ(2)

5. 異文化理解とは、全然知らない「異文化」に対して働きかける、ひとつのプロセスである
  - a. 全然知らない0の状態から、実現不可能な理想の100の状態をめざして、0よりは10、10よりは30……の理解を続けていこうとする試み
  - b. 「理解しようと試み続ける」プロセスであって、「理解した」という状態ではない
6. ★異文化理解は、個人としての他人の理解と似通ったものとしてとらえて、ほぼさしつかえない
  - 他人を理解することは必要か？ 他人を理解することは可能か？ という問いに対して、個々人がどういうスタンスをとるのか、という問題と、本質は同じである